

岡 谷

# 九条の会

2006・11 20

事務局 岡谷市長地片間町 2-5-5  
TEL, FAX 0266-28-9230

## ニュース No.14

木枯らしが吹きはじめました。一年回顧の気分となります。激動の一年でした。日本の政治はますます右傾化を強め、アジアの中で孤立化し、教育基本法改定、国民投票法、新憲法の3点セットを、がむしゃらに押し進めようとしています。長らく眠っていた大日本帝国のDNAが表に出てきたようです。人目に触れないところで、国民保護等関連法に基づく条例や保護計画の制定がすすめられています。しかし明るい兆しも見えてきました。アメリカ中間選挙では民主党が勝ち、さすがのブッシュ政権も、イラク戦争の誤りを認め、国防長官を辞めさせざるを得なくなりました。中南米では、次々と自主路線を歩む政権が誕生しています。国連事務総長に韓国の人を選ばれたり、6カ国協議が再開されそうだとか、来年に期待がもてそうです。

### 活動・行事の報告

#### 11月3日 憲法公布記念日 平和護憲の広告

信濃毎日新聞に、「県民過半数署名の会」の呼びかけで、見開き2ページ全面にわたる、「憲法九条を守れ」の意見広告が掲載されました。350以上の各九条の会、労働組合、民主団体がこれに賛同し、本会も参加しました。賛同金2万円は会費収入より出しました。

#### 11月4日(土) 定例会 諏訪湖ハイツ 「あんにょん・サヨナラ」上映会

15名ほどが集まり、あと戦争と平和の話し合いをしました。

**参加者の感想** ◎ 私たち日本人は、あの戦争で日本がやったことを、余りにしらなすぎる。靖国神社前の軍隊賛美の人たち、分祀を求める韓国人遺族への、右翼団体の暴言押し合いを見て、これが靖国の本当の姿だとおもいました。(伊藤フサ子) ◎ 韓国、中国において、被害を受けた人達の「恨」の声を聞いた。60年経ってもまだ被害を受けた人たちの悩み悲しみが続いていることが、申し訳ない気になった。(笠原忠夫)

◎ **前進座「銃口」(三浦綾子原作) 公演**は、来年10月26日、下諏訪総合文化センター大ホール(700人)に決定し、「憲法集会を成功させる会」を中心に、諏訪地区各九条の会や賛同する各種団体などを結集して、実行委員会を立ち上げる取り組みが始まりました。この7月に、人口3万人の駒ヶ根市で、800人を集めて公演を成功させたそうです。諏訪でも成功させたいものです。

- ◎ 「岡谷区憲法九条を守る会」では、10/22(日) **平和学習会**を開いた。岡谷東高の生徒4人が、沖縄戦と米軍基地など、自分たちの調べた結果を、自分たちの言葉でしっかりと発表し、集まった70人の参会者を感激させました。また戦時をしのぶ野草入りおにぎりを皆でおいしくいただきました。
- ◎ 「しもすわ九条の会」では、9/2(土)松代大本営見学ツアー 43人参加。10/16現在の署名数は、7,333名(目標10,000名)。11/1(水)平和館において「あんにょんサヨナラ」上映 20人参加。
- ◎ 「戦争はいやだ平和を守ろう会」(諏訪市)では、会員数が1,000名を越えたと発表(11/9)。現在、100人の戦争体験記を集めて、来年5月頃刊行の予定で取り組んでいる。
- ◎ 「憲法九条を守る原村民の会」では、本年も **村民文化祭**に「憲法は誰が護るもの?」というテーマで展示発表をしました。
- ◎ 「富士見九条の会」のほかに、富士見町に新たに「八ヶ岳の環(わ)」(滝沢洋子代表)が結成され、11/11(土)映画「日本の戦争」シリーズを「原村民の会」と共催で上映しました。
- ◎ 「茅野市9条の会」では、小学校区別に精力的に署名活動に取り組んでいる。現在 6,000筆。11/21(火)戦争体験を聞く会を行う。

◎ 先日の代表者会で、新たに本会代表者事務局員として、八幡武芳さん(長地柴宮2)をお願いすることになりました。よろしくお願ひします。

## 今後の予定

12月2日(土) DVD上映会 諏訪湖ハイツ大会議室

14:00~16:30

**「MABU I (まぶい)」**

参加料一人300円

一般の方大歓迎 家族、友人、知人に声をかけて、一人でも多くの方に参加を!

1月6日(土) 諏訪湖ハイツ大会議室 14:00 16:00

映画

**「ひまわり」をみながら—お茶の会**

会費300円

(一般歓迎)

### —ひまわり—戦争に引き裂かれた男女の悲恋

ジョバンナ(ソフィア・ローレン)は新婚早々、戦場へ送られ行方不明になった夫アントニオ(マルチェロ・マストロヤンニ)を探して戦地であったソ連へ。執念の捜索の末、ようやく夫と再会するが、彼は若いロシア人女性と結婚し、家庭を築いていた。「自転車泥棒」のデ・シーカ監督によるメロドラマで、世界中の女性の涙を誘い、日本でも大ヒットした。画面一杯に広がるひまわり畑の中で、夫の新たな人生を目の当たりにして、ジョバンナが呆然と立ちつくすシーンは、圧巻である。